

## Every Guitar tells a Story (part 1)

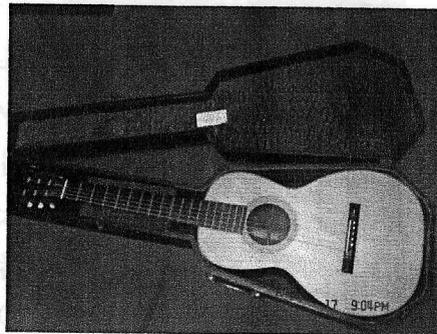
大阪 西田 隆郎 (Sparrows)

この記事が読まれる頃はきっと桜満開の頃でしょう。埼玉の M 氏宅のお花見 PP&M の集いも大いに盛り上がっている頃でしょう。

過日、中井編集長より私のギターについての話を是非との依頼がありました。いつも会報を楽しく読ませていただき、その発行のご苦勞に感謝している会員として、もちろん二つ返事でお受けいたしました。ところがいざ PC に向かうと何を書いているのか、部屋の壁にかかっているギター達をただ呆然とながめています。思えば PP&M の音楽に出会い始めてギターを買ったのは高校 1 年の頃でした。確か HOTAKA のドレッドノートギターでした。ただし、このギター友達に貸したままなのか、売ったのか、壊れてしまったのか消息不明です。その後、Peter のギターの音色を一途に追いつけた結果、気がつけば 10 台のギターと 3 台のマンドリンに囲まれた生活をしています。最近 Larrivee の '74 LO9 を手に入れました。とても嬉しくて、しばらくは正に「抱いて眠る」状態でした。これを機に年齢的にも、もうこの辺りで私の「ギター遍歴」に終止符を打ちたいと思っています。

とりあえずは Sparrows の HP に載せている順に、その特徴など思いつくままに語ってみたいと思います

### ① N.Y.Martin 1-21 No.なし 1890 年代製



(HP 上のモデル名、製造年代は誤りと気が付きました)

サイド、バックはハカランダ柾目、トップはおそらくアデイロンダック。

このギターは『Tone Poems』(注 1) と

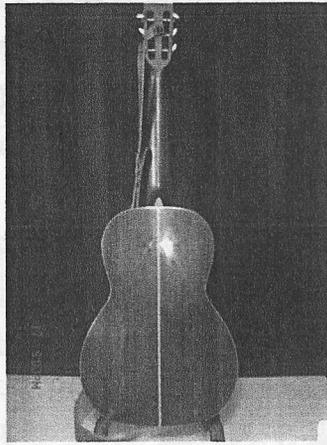
いう CD で一曲目に演奏されているのに近いものです。ポプラの木で作られた Coffin Case(通称棺おけケース)に入っています。当時は輸送に馬車を使っていたのでしょうか、非常に頑丈なケースです。カリカリに乾いてとても軽いギターです。

シルク弦を張っています、テンションは低くクリアーでエレガントな音色です。構造は現在の 12F Joint のギターと基本的に同じで、この当時にマーチンギターの構造の基礎はすでに確立されていたことに驚かされます。

楽器インポーターRHY ギターの山口氏(現在 RHY 音楽教室主宰者)がシアトルで見つけたもので、何でも孫にギターを買ってやりたいおじいさんが下取品として持ってきたものだそうです。

② C.F.Martin 0021 No.199742 '65 製

サイド、バックはハカラダ桎目、トップはシトカスプルス。

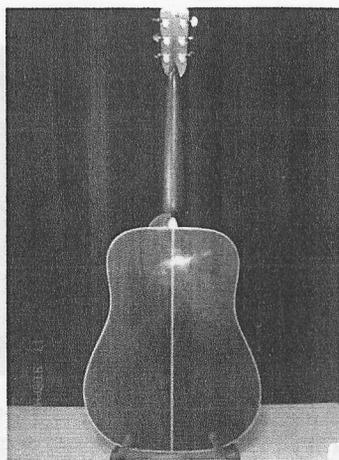
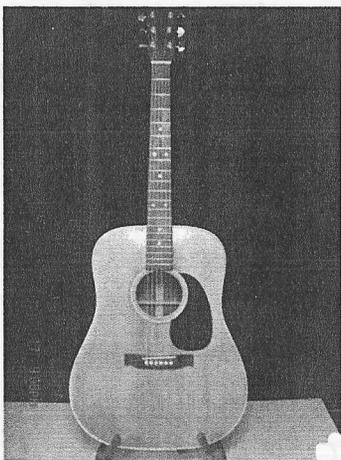


とても軽いギターにもかかわらず、サスティーン、倍音どこからこんな力があるのかと思います。ヘッドからエンドピンまで全身で振動し、響いています。花粉症の私のくしゃみにも一番反応してくれるのが彼女です。

ハイポジションのフィンガーピッキング (Sometime lovin' とか) がいい感じです。スト

ローク (Greenland WhaleFishers とか) もマンドリンやオートハープのように響きます。

これも前述の山口氏に譲ってもらったものです。



③ C.F.Martin D-28

No.218728 '67 製

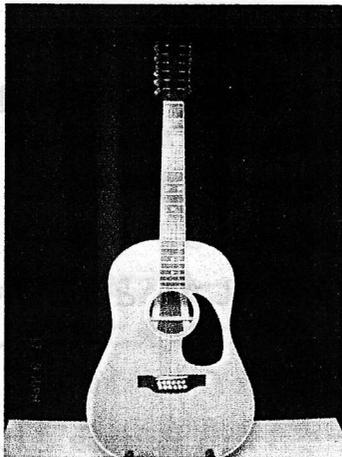
サイド、バックはハカラダ桎目、トップはシトカスプルス。

本来ブルグラーサーの定番ギターで、そんなに興味のないギターでしたが「レコーディングでは PP&M も使っているよ」って言葉を信じて購入しました。し

かし、やはり実力があります。低音はもちろん、音量、バランス、音色、弾きやすさ等どの点から見ても頼りになるギターです。ステージでどうしても1本となるとこれを持ってしまいます。Bob Dylan も同じ事を言っていたという噂があります。

実はこのギター大阪のあまり有名でない楽器店で'97に見つけました。Sunrise

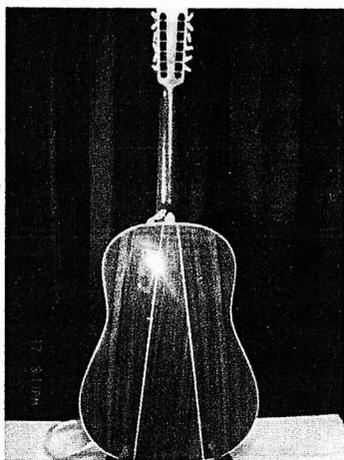
の Pickup のおまけまで付いて、当時の新品の D28 と同じ位の値段で売られていました。コンディションも完璧で、面談即決で購入しました。その後すぐこのお店、閉店になりました。私が潰したようで何か後味の悪い気持ちです。



④ C.F.Martin D-35-12 No.398067 '77 製

サイド、バック (3P) はインディアンローズ、トップはシトカスプルス。

Leavin' on a Jetplane, For Baby, Light one candle, Wedding song、人生の裏側・・・どうしても欲しいサウンドですね。学生時代の先輩でイルカのご主人 (一昨年になくなられましたが) がリムジン川(イムジン川と同曲)でプロデビューの際にこれと同じギターを買われた。「買った以上プロになる、もう後には引けない」って笑っておられた。懐かしく思い出します。

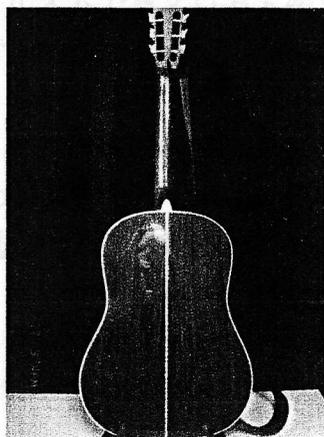


しかし 12 弦は弦の張替えに(特に slotted head は)半日かかります。挙句のはてにチューニングで一弦 E 線を間違えて巻き上げ切断という最大の悲劇も起こります。簡単に見えて演奏も結構難しい厄介なギターです。さらに重いので 1 曲 2 曲のために東京に連れて行くのも大変で、未だデビューしていません。

これも山口氏に探してもらいましたが Peter の'66 製は製作台数が 625 本で待ってもまず出てこないとの事でした。

⑤ C.F.Martin D-28S No.957822 '03 製 170<sup>th</sup> anniversary custom

サイド、バックはインディアンローズ、トップはシトカスプルス。



このギターは黒澤楽器がマーチン 170 周年を記念して 10 本限定で CUSTUM したものです。日本の PP&M ファン、特に Peter 狙い撃ちという卑怯な企画にマンマとはまらさせていただきました。考えたらこんな奇妙な形の弾きにくいギター

我々以外誰が買うのでしょうか？ そういう意味では私には買う義務と責任があったのかもしれませんが。音はいい感じでさすがなのですが、とにかくネックが丸太より太いので大変です。私は人より手が大きい方なのですがそれでもきついです。Shubbの12弦用カポでも4フレットが限界、演奏の途中でカポ外れたらと思うとぞっとします。

10本の追跡調査をしていますが、私含めて4台の所在が判明しています。そのうち「探偵ナイトスクープ」に調査依頼をしようと思っています。(間違いなくボツでしょうが)

以上、私のMartinギターのお話をさせていただきました。

LaPlante Etc.や、Larrivee 輸入奮戦記などのお話は次回にしたいと思います。

(次回へ)

注1 「Tone Poems」1994年にAcoustic DiscレーベルからReleaseされたビンテージギターとマンドリンのアンサンプル、サブタイトルは「The sounds of the Great Vintage Guitars & Mandolins」演奏はギターがTony Rice マンドリンがDavid Grismanという二大巨匠です。一曲ごとに楽器を持ち変えての演奏と音色はすばらしいの一語。まさしくTone Poems。おまけに20ページに亘る楽器の写真と説明が付いています。是非聴いてみてください。お勧めします。又Tab譜の付いた譜面も別売りされています。お互い無理だと思えますが演奏にもチャレンジしてみてください。

(編集担当から)

より鮮明なギターの映像は、西田さんが書いておられるとおり、SparrowsのHPにありますので、どうぞ、そちらをご覧ください。ファンクラブホームページの「Link」から入れます。